

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270300191		
法人名	有限会社 ハートキュアエム		
事業所名	グループホーム ハートキュアひらた(おちらと)		
所在地	島根県出雲市国富町832-2		
自己評価作成日	令和7年2月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3270300191-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和7年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・生活保護者や困難を抱えている方を引き受けている事。
 ・ホールからは、田園風景が眺望できるため季節の移り変わりが体感でき、入居者様に喜んでいただいています。また、裏庭の畑で共に育てた野菜を収穫し召し上がっていただいています。
 ・地元自治会に加入し、開催される行事にも積極的に作品等を出展させていただいています。
 ・「ゆっくり、いっしょに、楽しく、おだやかに」の理念のもと、入居者様が日々安心して過ごして頂ける生活環境を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景の広がる環境に建てられている2階建て2ユニットのグループホームです。自治会に加入し、地域のコミュニティセンターの文化祭に利用者の作品も展示しておられます。運営推進会議の委員として自治会長や地域からの参加頂き、地域の情報も頂かれています。コロナやインフルエンザの感染状況を考慮しながらの交流が継続しています。ホームの畑で収穫された野菜をみなさんに召し上がられたり、毎月行われている行事では手作りのおやつを職員と一緒に作られる機会もあり、利用者の楽しみな時間となっています。また、家族へもホームでの様子を伝えられるよう毎月お便りを今年から出されており、より細やかに利用者の状況をお知らせされることにより、家族との信頼関係が構築できるよう配慮されています。看護師が職員として配置されており、健康管理体制も整っており、医師との連携も図られています。新しいホームの体制になり、職員のスキルアップを推奨され、利用者により良いサービスが提供できることを目指しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「未来永劫に事業を発展させることこそ利用者との最大限の契約となる」との基本理念の下でケアの実践が出来るよう努力している。	新体制になり、理念も新しいものを作られました。職員は年に1回レポートを書かれ、理念の振り返りを行ない、理解し実践へとつながるよう努めておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の文化祭等に参加している。	地域のコミュニティセンターの文化祭に作品を展示されました。コミュニティセンターから催し物の案内もあり、徐々に繰り返しにコロナ禍前に戻りつつあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験を受け入れ、その際認知症について説明、体験してもらう場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を奇数月に実施している(2カ月に1回)	運営推進会議2ヶ月に1回(奇数月)に実施されています。行事報告、利用者の様子、ヒヤリハット・インシデント報告等が行われ、委員の方から頂いた意見をサービス向上につなげるようにしておられます。運営推進会議の際、民生委員から民生委員8名で施設内見学をしたいという申し出があり、サービス内容をより知って頂く機会を持たれました。	昼食試食会や避難訓練の様子を見て頂く機会を持たれることも良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所への訪問やホームページを確認して、質問や協議等連絡を取り、サービスの向上を目指し協力している。	運営推進会議の委員として出席して頂いています。また、市役所への訪問やホームページを確認され質問や協議等の連絡を取られています。成年後見人制度を利用される際に連携が図られました。また、介護相談員の訪問があり、書面で報告を受けておられます。サービス向上を目指し協力しておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての委員会にて研修を実施し、正しい理解を推進している。	3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会を開かれ、研修を実施され、正しく理解できるよう取組まれています。身体拘束についてはみなさん正しく理解されています。定期的な研修も実施されています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の委員会にて、施設内研修を実施し、理解を推進している。	身体拘束廃止委員会と同時に3ヶ月に1度虐待防止委員会を開かれ、施設内研修を実施し、理解を推進されています。指針も作成されています。定期的な研修も実施されています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者を受け入れており、又、家族との折り合いがよろしくない利用者への成年後見制度の適用を働きかける等活動している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の説明時や契約時に時間をかけて説明し、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には事情に合わせた頻度で連絡している。その際、現状もお伝えしている。	利用者へは日々の会話から意見・要望を聞き取られています。家族には面会時、ケアプランの変更時に意見・要望等伺われています。今年1月から利用者の様子がわかるようご家族にお便りを送られています。また、個々の事情に合わせた頻度での連絡をされ、家族との信頼関係が構築できるよう図られています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ケアカンを行っており、夜勤者からもアンケートを取り意見を出してもらっている。 代表者と職員は年2回の面談を実施し、提案等を確認している。	ホームの運営に関することはユニット毎に会を行ない、意見を出されています。また、月に一度ケアカンファレンスが行われており、夜勤者からもアンケートを取り意見をもらわれています。代表者と職員は年2回の面談を実施し、提案等を確認されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の資格取得を業務研修として取り扱い支援している。また、資格取得に伴う昇給などで職員の技能講習を支援している。	キャリアアップの仕組みを導入され、積極的に資格取得を目指すことを推奨されています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加を実施している。 また、年間スケジュールを計画し、内部研修を実施している。	年間スケジュールを計画し、内部研修を実施されています。外部研修への積極的な参加も行われ、オンラインでの研修も活用されています。働きながらスキルアップできる職場作りを目指しておられます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の外部研修参加やフォローアップ研修、ネット配信を活用している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談があった場合、施設見学をしてもらい、家族様やケアマネジャーから聞き取りを行い、よりよい関係が築けるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅や施設等での、これまでの経過を伺い、今後どのような生活を望んでおられるのかを共に考えていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、グループホームでの生活が適切かどうか見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や季節の行事等を通じて普段から利用者に教えて頂く場面を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員で話し合い、利用者の希望に添えるようにしている。病院の受診は原則、家族様にお願いし、帰り道買い物を一緒にしてもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の意向を尊重し、必要な人との面会が可能となるよう努めている。 コロナ等感染症対策の為、面会制限や禁止等の措置を講ずる場合がある為、その都度、通知させて頂いています。	家族様の意向を尊重し、必要な方との面会を支援されています。家族の協力を得て行きつけの美容院や墓参りに出掛けられる方もあります。コロナ等感染症対策により、面会制限や禁止等の措置を講ずる場合がある為、その都度、通知をされています。	馴染みの場所に出かけられたり、人に会われた後には思い出を話して頂いたり、写真や手紙から昔話をしてもらい、回想法につなげて行かれると良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑になるよう職員が調整役になるよう努めている。食事の席の配置も利用者同士の関係を考慮して座っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した方へのフォローはおこなっていない。今後は、必要な取り組みとして実施していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様本人のご希望を取り入れた支援に努めている。	日頃から利用者の意向が確かめられるよう努めておられます。誕生日には食べたい物を尋ね対応をされています。	思いや意向から長生きをするための目標、や生きがいがいいにつなげていかれるとよろしいと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用される前に自宅訪問や介護施設での状況を確認している。 また、本人やご家族様から聞き取りにより、日々の生活状況を把握して情報シートに記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、できないこと、一日の生活リズムが把握できるような記録している。 また、状態に変化がある場合にはさらに詳細に記録し、生活のリズムに対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で意見交換やケアカンファレンスをおこない、現状に対応した介護計画を作成している。	毎月ユニットでのモニタリングが行われており、部屋担当がモニタリングチェック、アセスメントを行ない、計画作成者と打合せ原案を作り、本人・家族の意向確認、他の職員や医師からの意見、看護師に相談され介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを活用し、ケアの方法、気づき、工夫を職員全員が把握できるようにしている。	普段の記録はタブレット入力で行なわれています。手書きの連絡ノートも活用し、ケアの方法、気づき、工夫を職員全員が把握できるようにされています。ケアプランの変更時には計画作成者から記録の留意点について伝えられています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、相談したうえで、外出や受診の支援をおこなっている。 また、看取りへの対応、地元公民館からの見学、相談支援活動を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方との触れ合いの場を今後は、再開していきます。 医療関係との連携を深め、感染症防止への対策を講じます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の時点でかかりつけ医への受診を希望された場合も対応しています。 また、通院もご家族様やご本人の状況に応じて施設側での対応もしています。	内科は往診のある協力医をかかりつけ医にされている方が多いですが、入所の時点でかかりつけ医への受診を希望された方への対応も行われています。精神科等の他科受診は基本的には家族と受診されますが、家族や本人の状況に応じて受診支援もされています。看護師がおられるので同行されたり、医師への情報提供も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、利用者の健康状態を把握、相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師にて、支援方法に関する情報を医療機関に提供している。	入院時には病院の地域連携室と連絡を取り、看護師から支援方法に関する情報を医療機関に提供されています。早期退院を目指し、退院カンファレンスを受け、退院後の生活の注意点を聞かれています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応を説明している、重度化した場合のご希望を伺い、施設でできる対応を説明していく。	入居時に重度化対応を説明が行われています。現在ターミナルケアに対応できるよう体制を整えられており、家族からの希望を伺い、施設でできる対応を説明され、医療行為が多くなった場合は施設移行の検討も行なわれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備えて、スムーズな連携が出来る様、救急患者引継票を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの委員会を立ち上げ、災害が起こった時の緊急連絡網を作成し連絡がスムーズに行くか訓練している。 また、1Fより2Fへの避難を実践した。	BCPの委員会を立ち上げ、災害が起こった時の緊急連絡網を作成し連絡がスムーズに行くか訓練されています。法定で定められた年2回の避難訓練を実施されています。水害の際の1Fから2Fへの垂直避難訓練が行われました。非常時の職員配置の検討も行われており、備蓄品の整備もされています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの問題や人権についての研修を実施している。また、それを念頭に置いて利用者の自尊心を尊重した対応を全員で考え実行している。	プライバシーの問題や人権についての研修を実施され、それを念頭に置いて利用者の自尊心を尊重した対応を全員で考え実行されており、接遇研修も行ない言葉遣いにも気を付けておられます。排泄・入浴はマニュアルに従い、プライバシー保護に努めておられます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞きながら支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のペースに合わせ、ゆったりとした日常生活が過ごせるようしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみを、その方に合わせて整えられるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が好まれない又は摂取出来ない食品は一部変更して提供している。外部より食事を導入しているので栄養面はしっかりしている。	御飯、汁物はホームで用意されており、その他は外注されています。アレルギー対応をされ、代替食を提供されています。栄養面も計算され、献立もバライティに富んでいます。畑で収穫された野菜も使われています。行事等の際には、みなさんでおやつを作られ楽しまれています。可能な利用者の方には食器洗い等、役割を持って職員と一緒にやっておられます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を記録し、不足している方についてはお好みの飲み物をお出しすることで不足を補えるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じて、自力や誘導、介助での口腔ケアを毎食後行なっている。	全員食後には口腔ケアが行われており、それぞれの状態に応じて対応されています。義歯の洗浄は個々の状況に合わせて夜間預かられて洗浄液に入れ、清潔保持が行われています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所された時点でのチェック表等を活用する事で状況を把握し、自立排泄をめざし、紙パンツの使用を最小限にできようとしている。	排泄チェック表等を活用され状況を把握され、それぞれに応じて声掛け、誘導、介助の支援が行われており、2名介助の方もありますが最期までトイレで排泄がして頂けるよう取組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、朝一番に水分補給をしてもらい腸を活発にしようと共に朝食時ヨーグルト提供し腸内環境を整えてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の体調に合わせて週2回入浴できるように心掛けると共に身体の異変に注意しています。	利用者の体調に合わせ週2回入浴をされています。基本的には日曜日はお休みです。特に健康管理の必要な方は看護師がシフトに入られる日に入られています。入浴拒否の方もあり、入浴中に浴室から出たくなる方もありますが事故のないよう対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者様の体調に合わせ離床時間を調整すると共にDrとも相談の上安眠出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については看護師から本人が服用しやすい形態・注意点など全員が把握できるようにしている。	薬局から受け取られた薬は看護師が確認され、個々の薬ケースにセットされ、鍵の付いた戸棚の保管し配薬時はダブルチェックをされ誤薬のないよう注意されています。個人ファイルの中に薬の内容が分かるよう入れられ、看護師からも本人が服用しやすい形態、注意点等全員が把握できるようにされています。薬の変更時には看護師が連絡ノート書かれ情報共有、注意して見守り、変化があれば看護師に報告、医師に連絡されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様がしてこられたこと、今できることを把握し、力を発揮して頂けるようしている。また、ドライブに出かけたり、レクリエーションでお菓子作り等おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の近所で行きたい場所をお聞きしてなるべく実現できるよう外出等を計画している。	日常的に畑の様子を見て世話をされる方もあります。外出が難しい方は外を眺めて四季の移ろいを職員を話しながら感じてもらっています。利用者の近所で行きたい場所をお聞きし、家族の協力も得ながら、なるべく実現できるよう外出等を計画されておられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本利用者様は持たれず家族様管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいという希望があればかけられるよう支援している。携帯の使用も可能な限り自由に行ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	再生専用のDVDを設置し、昔ばなしや懐かしい映画を見て楽しむ時間を設けている。	季節の飾り付けや壁面の利用者の作品やレクでの撮った写真が飾られています。南向きの窓があるので、採光も良く、温度・湿度管理をされ、換気にも気を付けられます。畳のスペースもあり、コタツを出されたり、洗濯物を畳まれています。また、再生専用のDVDを設置し、昔話しや懐かしい映画を見て楽しむ時間が設けられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルの席替えや配置替えを工夫して、気分転換をしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品を持ってきてもらい、本人や家族と相談しながら配置を考えている。	本人の馴染みの方の写真を飾り、使い慣れた家具や日用品を持ってきてもらい、本人や家族と相談しながら配置を考え、動きやすいように動線にも配慮され、居心地良く過ごせるよう工夫されています。。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	番茶詰めや食器洗いをスタッフと共に利用者様に行っていただいている。時には、おかし作りも手伝ってもらっている。		